

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑貳番館 (ユニット名 1階)
所在地	福岡県久留米市江戸屋敷1丁目11-1
自己評価作成日	令和2年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和2年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、久留米市内でも高齢化、特に高齢者単独世帯が多い地域に平成28年11月に開設し、地域の中の認知症を患われてしまった方々の住む「家」として事業を行っている。ご利用者様が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らしていけるように支援しており、日頃の散歩・地域の夏祭りに参加している。ご利用者様の認知症の状況・身体の様子は其々でも、互いが互いを必要とし同じ「いえ」に住む疑似家族として生活を支援しており、数名のドクター及び訪問看護ステーションとの連携により、ターミナル支援・お看取り支援を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バイパスが交わる市内の主要幹線道路より通りを入った閑静な住宅地に事業所はある。近くには季節の花の咲く木々や小さな川が流れ、利用者の日々の憩いの場となっている。自然の光が優しく入る明るいうちでゆっくりと流れる時間の中、ゆったりと利用者は過ごしている。法人理念の中にある、利用者の尊厳の尊重や疑似家族として共に暮らす姿勢が職員にも浸透しており、馴染みの地域や家族との交流を続けることで理念を実践している。開設4年目を迎えるにあたり、地域との交流を更に深めていくことも検討している。そして特に今年はコロナ禍の中、利用者と家族との面会ができないために、事業所では、ホームページにパスワードを設定した家族専用ページを作成し、利用者の日頃の暮らしぶりや行事の様子を撮影した写真を閲覧できるようにしたり、事業所と家族がLINEで繋がりが、ビデオ通話ができるようにする等、利用者と家族との馴染みの関係が継続できるよう工夫している。今後の取り組みがますます楽しい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の介護理念は、法人の理念であり、この理念が実践できるよう努めている	17年前の法人開設時に施設長が法人理念を作り、職員は利用者の尊厳を大切に、家族や地域と交流しながら利用者の生活が送れる様、心にとめながら日々従事しており、理念を共有しながら実践している	グループホーム開設時からの職員も一緒に、地域に密着した事業所としての在り方等を含め、法人理念を基に、事業所独自の理念の作成を検討する機会を持つことを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、校区夏祭りへの参加等、地域との付き合いは行ってはいるものの、今後益々「地域の一員として」交流を深めていきたい	自治会に加入するとともに、昨年度は自治委員を務め地域へ配布物を届けて回ったり、地域行事では事業所として企画段階より参画するなど、地域の一員として交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター開催の認知症サポーター養成講座で講師を務めるとともに、他の事業所と共に地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるのかを模索している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の運営推進会議には、市職員・包括職員は勿論、他の小規模多機能事業所・薬剤師にも入っていただき、各方面からの屈託のない意見を頂戴しサービスの向上に努めている	2ヶ月に一度、行政や地域、利用者と家族も参加し運営推進会議を開催している。今年度はコロナウイルス感染症拡大予防のため、文書により報告や検討事項を確認している。また、地域行事への参加・出演依頼があり、利用者と共に参加し楽しむなどサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米介護福祉サービス事業者協議会の理事長を仰せつかっており、グループホームに限らず、久留米市内の事業所の実情、行政としての指導等、協力関係を築けている	市の介護保険担当者とは日頃より連絡を取り合っており、事業所として市に協力することもある。制度改正時の加算についてや、事故発生時の報告についての相談など、何でも相談しやすい関係を築いており、互いに協力しあう関係である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関、フロアのカギは施錠しておらず、夜間のみ施錠している。フロア入口にはセンサーを設置し、フロアから出られる入居者様がおられるときはスタッフも同行し行動は制限しないようにしている	事業所の身体拘束マニュアルには身体拘束となる具体的行為及び止むを得ずそれを行う際の三原則を記載して、職員がいつでも手に取れるところに保管している。年に1度は身体拘束に関する法人内研修を開催し、職員は身体拘束に該当する行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や外部研修で学ぶ機会を設け、理解を深め、苑内での虐待が見過ごされないように努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行い学ぶ機会を作り、ご家族からの相談が受けることができるように支援している。	年に1度、権利擁護の研修を開催している。玄関には成年後見制度のパンフレットを設置しており、だれもが手に取れる状態である。また事業所に後見人が選任されている利用者がおり、制度利用が必要と思われるときは管理者が利用を勧めるなど、制度を活用しながら支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に見学、相談を重ね、納得していただいたうえで入居して頂くようにしている。契約後、サービス開始後もご家族との交流を持ち、相談がしやすいようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声をかけ、年に2回家族会を開き、日頃の様子をお伝えしたり、ケアプランの見直し時にはご家族の意向を聞き、反映している	家族の訪問は多く、話を聞く機会は多い。どのような日々を送りたいのかを折に触れたずね、要望にび応えられるように心がけている。訪問リハビリや訪問マッサージを導入する等、運営に反映させ利用者のサービス向上を図っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで時間を取り、スタッフの意見を聞く機会を設けている。ミーティングで出た意見を月一回の運営会議で管理者より、会社へ伝え、反映できるように努めている。	日々の業務の中での意見交換はもちろん、年に2回管理者と職員は個別面談の機会がある。利用者の状態変化に対応できるよう、職員の要望もあり、全居室に3モーターの電動ベッドを導入したり、利用者や職員の動線や業務効率を考え、収納棚を設置、移動するなど、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、国籍、性別、年齢は問わず人柄を重視している	勤務体制や希望休暇、有給休暇の取得など、職員の希望を伝えることができ、職員は社会参加を充実させることができている。資格取得への協力体制や研修参加の希望も相談でき、職員の意欲向上に繋がっている。また利用者の生活の中で職員の特技を発揮する機会も多く、職員は活き活きと働いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内、外部での人権についての研修に積極的に参加するように努めている	年に1度人権学習の機会があり、今年度は全職員がビデオ学習を行った。職員は、「利用者は目上の方でありその尊厳を尊重すること」を意識しており、不適切な言葉遣いがあれば、直ぐに正し、利用者は苗字にさん付けで呼び丁寧な対応を統一している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部研修及び法人内研修には多くの職員 が参加し、研修報告書を提出し、職員それ ぞれが自己の向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会 の総会・ボーリング大会及びその他の研修 会、運営推進会議・包括との地域ケア会議 などを通じ、地域の他の事業所との交流に 努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問を行い、その時の困りご とをご家族、ご本人にお聞きしている。入居 後はスタッフが見たり聞いたり感じたことを カンファレンスで周知し、ご本人との関係つ くりにも努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居時にご家族様の思いや困っていること をお聞きし、ご家族様の思い、希望、今後の の方向性などを確認して。入居後は面会 時などにご家族とお話をするようにしてい る		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ができる事できない事、できそうな 事を見極めケアプランに結び付けられるよう に記録に残している。訪問マッサージを受け ておられる方もおられる		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者様を敬い、様々なことを教 えていただき、ご本人様ができることは、お 盆拭きやテーブル拭きなど一緒にお手伝い をしていただいている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご利用様の変化や様子をご家族様の面会 時や電話にて報告し、良いことも悪いことも 共有している。また、外泊や外出、夏冬の服 の準備などご家族様も一緒にしていただくこ ともある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様が来苑しやすい雰囲気づくりに努め、ご家族様やご親戚の面会も多い。関係が途切れないように支援している。時々自宅へ帰られる方もおられる	利用開始時に、利用者と家族より生活歴や馴染みのある場所や人物などを聞き取っており、その関係が途切れないよう支援している。行きつけの美容室へ外出したり、感染症の状況に留意しながらホームページも活用し、できるだけ家族との交流が途切れないよう工夫しながら支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが声掛けを行い、レクなどを通して利用者同士が関係を深められるようにしている。利用者間でのトラブルがまれに起こるためスタッフが見守りを行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が退居後もご家族様には年賀状を送ったりと関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの見直し時に、ご本人とご家族に意向をお聞きしている。また、日ごろの会話の中や、行動などを観察し、希望や意向を把握するようにしている	利用開始時やケアプランの見直しの時期に、本人や家族の意向を聞き確認している。また毎日の生活の中で、個別に利用者の訴えや要望を聞くようにしている。訴えなどを表出するのが困難な場合は、表情や日頃の状態、反応にて、意向を把握して対応に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活歴を書いていただき、ご本人からも聞き取りをしながら把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録し、変化や異変などの把握に努めている。主治医からの指示は個別ノートにも記載しスタッフで共有している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を把握し、月一回のカンファレンスで意見を出し合いながらチームで介護計画を作成している	利用者の状況等を記録し、情報を職員全体で共有、また本人や家族の意向、希望等を確認し、長く歩ける様に室内歩行や認知症進行防止のための脳トレ等を取り入れている。主治医や看護師、リハビリ担当の各機関とも対応時に情報共有して意見や指導等をもらい、チームで介護計画を作成し、心身状況に変化がある時点で見直しをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、申し送りも行い情報を共有している。問題点をスタッフ間で検討し、計画の見直しにも生かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況に応じてその都度スタッフ間で話し合い、希望の方には訪問マッサージや訪問リハビリなどの導入もお話し、導入されている方もおられる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にも参加させていただくなど、地域との共働を心掛けている。近所に散歩に出かけ季節の風景や、地域の方との会話など日々の生活も楽しめるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医をお聞きし、希望に応じて対応している。場合により主治医の変更の相談もお受けしている	本人や家族の希望するかかりつけ医に対応し、特に希望がない場合は、訪問診療等紹介している。他の医療機関への受診は家族が同行しており、都合がつかない場合は、職員が送迎や同行することもあり、臨機応変に対応している。受診内容や服薬状況については、本人や家族、職員や医療機関と連携して、受診ノートなどで、しっかりと情報共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の身体面、精神面、言動、行動など、日常の変化を把握し、変化があれば看護師に相談し、必要があればかかりつけ医の看護師へ報告している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院側と管理者、ケアマネが情報を交換しスタッフも情報を共有し関係づくりに努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当苑では、お看取りまでさせていただいていることを入居時や、状態の変化があった時にご説明し、入居者様、ご家族様の希望をお聞きしている。終末期には主治医の指示により訪問看護も利用し支援している	終末期の対応をしている。最期に近いことが判明した時点で、24時間体制の訪問看護で対応し、利用者の心身状況について、家族に報告して全体で情報共有している。終末期で夜勤時の対応に不安がある新人の職員については、管理者や訪問看護や看護職員等がすぐに対応できる体制がある等の説明をして、安心できる様にフォローしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、フロアにマニュアルを置いて常に見れるようにしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練、年1階の水害の訓練を行っている。地域の方へも参加し、ご協力していただけるように声掛けは行っている	近年大雨災害が続き、近くの2ヶ所で氾濫危険水位を越えてきたら避難すると決めている。今年は3、4回程、利用者を2階へ誘導し、夜を過ごした。水害、火災訓練は各1回実施し、12月に消防署員参加のうえ訓練を予定している。消火器やスプリンクラー等の設置や備蓄もあり、賞味期限も表示している。地域への訓練参加の声かけはしているが、参加に至っていない。	災害発生時に職員のみでの避難誘導は困難であり、人的支援は必要である。防災訓練時から地域住民の参加が望ましいことから、開催時期を含めた今後の協力体制の構築について検討することを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のある声掛けを心掛け、居室で更衣をする際や、トイレでの排泄介助の際も、扉を閉めてプライバシーの配慮を行っている	着替え等、小声や耳元で声かけしたり、扉を閉めたりして誘導している。常に利用者を目上の人として接し、名前で尊厳をもって呼ぶ等、職員全体で注意している。個人記録は、目に触れない様に、棚の中に保管している。家族にはタブレットで、個別にパスワード提供したうえで、写真が見られるようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様がご本人の思いや希望を言える関係、環境を作り、自己決定ができるような声掛けを工夫している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、ご利用者様のペースに合わせて一日を過ごしていただけるように支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時にはスタッフと一緒に服を選び整容されている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日ごろの会話の中で、食べたいものなどを聞きながら、好みと食べやすさを考え食事を提供している。皮むきなど簡単な準備、または片づけ、洗い物など楽しみながら、会話をしながら協力していただいている	リビングに献立の表示を置き、職員が説明し、調理は専任職員がいる。週1回のパンの日に、希望する利用者には、ご飯への変更や、キムチやカツカレー等を取り入れたりと好みに応じており、身体状況によりミキサー食等も対応している。中華専門店の味を取り入れる等食事を楽しめる様に工夫し、利用者は洗い物等できることを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはもちろんの事、その方の状態に合わせた形態で食べていただいている。水分量も一日を通して記録し適切な量を摂取していただけるように計量している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔を維持していただいている。ご自分で出来られない方には、口腔スポンジなどを使い支援している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し確認し、その方の排泄のパターンに合わせてトイレ誘導や声かけを行い失敗を減らす工夫をしている	定期的な声かけや排泄チェック表を活用して、排泄のケアや自立に向けて、職員が連携して対応している。退院時に、オムツ着用だった利用者が、排泄のリズムを把握することで紙パンツやトイレでの排泄ができる様になった事例があり、自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために運動や乳製品などの摂取は毎日行うようにしている。便秘が解消できない場合は主治医へ相談し、頓服薬などの指示をいただいている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一日に入ってもらえる人数に限られてしまうが、希望や体調によっては日にちや時間をずらして対応している。ゆっくりと入ってもらえるように好みに合わせて楽しんでもらっている	職員は、利用者と着替えの準備を一緒にしたり、入浴後の保湿対策で肌のケア等をしている。湯船に長く浸かりたい利用者や、多めの湯量を希望する場合は、体調に配慮しながら対応している。入浴を拒まれる場合には、時間をずらしたりと工夫して対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時だけでなくご本人からの希望があったり、体調がすぐれない時はいつでも休んでもいただけるよう支援をしている。また、各居室には温度計を設置しており、居室で休まれる際に快適にお過ごしいただけるよう、その季節に応じて室温と湿度の調整を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と薬剤師との連携を行い、薬の用法、用量を間違えないよう説明を受け支援を行っている。また、すべてのご利用者の処方される説明書をまとめたファイルを作成しており、いつでも確認出来るようにしている。一人ひとりの個別ノートには薬剤師より処方された薬の記入をされている。薬の変更時や頓服薬の使用時にも記入を行い、状態の変化がわかるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持つておられる力を生かし、家事で役割をもっていだいたり、趣味で気分転換ができるように支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人が希望される場所にはご家族様と一緒に出かけられるように支援している。希望をお聞きし、レクリエーションで外出の計画を立てたりしている	散歩を希望する利用者が、職員と一緒に近隣を散歩し、金木犀の香りで季節の話をしたり、小川の亀を見て喜んだりしており、日頃から外出を楽しんでいる。普段は行けない市内の山へドライブすることもあり、外出希望に対応している。利用者の希望による外食等は、家族の方に連絡して外出支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さは理解しているがトラブル防止の為に、事務所で預かり金としてお預かりしている。希望があればご家族に確認後、使えるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば電話をかけるお手伝いをしている。LINEのアプリを使いテレビ電話や写真をご家族に送り、ご家族とも交流できるようにしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で清潔な空間づくりに努めている。玄関の花壇には季節の花を植え、外には野菜と一緒に植えて、季節を味わえるようにしている。居室には毎月、季節に合わせたカレンダーを入居者様と一緒に作成し、貼っている	玄関ロビーに水の流れる置物は、「癒される」と利用者に喜ばれている。室内は、適温に調整し、コロナウイルス対策として1時間に1回窓を開け換気している。自然の採光があり、リビング続きのベランダからは近隣の景色がみえる。壁には、利用者が作ったイチョウ等の貼紙を飾り、季節を感じる工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて話をされたり、居室で自由に過ごされやすい空間づくりに努めている。席位置を考慮し入居者様間でトラブルにならないように心掛けている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様とご本人様を使い慣れたものの、見慣れたものを置かれ、心地よい空間になるように心がけています	各居室には、得意な習字や詩、家族や自宅の風景の写真等を飾ったり、家具や仏壇、テレビ等使い慣れた物を持ち込んだりしている。好みや季節に応じた服を壁のフックにかけ、分かり易く手に取れる様に配慮している。居室の仏壇の前で、お寺の方や家族を招き、法事を執り行う等、利用者に寄り添う支援をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じて安全に自立した生活が送られるように、手すりの配置や家具の配置にも考慮している。洗剤類の置き場も随時検討し、安全な環境づくりを目指している		